

長野のミールケア

被災のパン工場再建

来月1日稼働 生産能力1.7倍に



野菜パンを作るミールケアの新たな生産ライン。稼働開始に向け、作業を確認した29日、長野市

給食受託サービスのミールケア（長野市）が、2019年の台風19号で被災した長野市穂保のパン工場を再建し、4月1日に稼働させる。工場拡張と生産設備の一新で、生産能力を被災前の約1.7倍に増強。食物アレルギー対応のパンなど全国の保育園・幼稚園からの受注が拡大しており、2022年3月期は大幅な増収を見込んでいる。

県産スギを使った木造平屋で、旧工場と同様、直営レストランを併設。倉庫跡地などに建物を拡張し、延べ床面積は旧工場の約2倍の約千平方メートルに広げた。食品製造の衛生

基準「HACCP（ハサップ）」にも対応し、生地成形や包装などを省力化する設備も増設。生産能力は、旧工場の月産30万個から同50万個に引き上げた。

量産ラインでは、アレルギー物質の卵や乳を含まない野菜パンなどを製造。急速冷凍して全国の園に発送する。米

粉を使ったパンを海外に輸出したり、自然災害などに備え長期保存ができるパンを生産したりする計画もある。

水害対策などで周辺の約3畝を盛り土で囲む計画で、植樹を含めて今年秋ごろ完了する予定。併設のレストランは新型コロナウイルスの感染拡大の状況を見ながら、年内の

営業開始を目指す。

同社の21年3月期の売上高は約72億円の見込み。給食のコンサルタント事業も伸びており、22年3月期は約82億円を目指す。関幸博社長は「ミールケアの給食の採用によって入園児を増やす園を全国に広げていきたい」と話した。